

ご協力ありがとうございます！

【6月の新入会】(敬称略)

株式会社筑豊製作所(センター)

福岡県八女市 (センター)

【6月の寄付品】(敬称略)

千葉頼子、高田食品工業(株)、フリースクール玄海、脇山校区志水地区、(株)カクマル、(株)オーレツク、長丘ファイターズ、柴戸様、松永賀代子、水町真理子、鶴田喜代子、風雅堂藤島光信、増留愛香音



鬼木大明神 今月の一句

お客様がいなければ商売は成り立たない！お客様に寄り添い全力でお客様を満足させようと努力していた初心を忘れてはいないだろうか？

お客様がいることは当たり前ではない。**喝**
「おかげさま」との感謝の気持ちを決して忘れるな！お客様を恋人と思え！恋人のためならいろいろとアイデアが浮かぶものだ。「おかげさま」の気持ちを持ち続けることが欠かせない。その気持ちの真剣度があれば必ず幸せになれるのだ！！

ひなた園田植え交流会 6月16日、佐賀市大和にある保育園ひなた村自然塾さんとの田植え交流会がありました。研修生・豊田副所長・国ボラの私で参加し、保育園内にある田んぼで先生方、園児たちと一緒に田植えを行いました。ひなた村自然塾は太陽と土と緑があふれる自然いっぱいの保育園で、可愛い動物達もいます。園児達は、身近な環境で自然と触れ合うことができるのでとても生き生きとしていました！田植えはもちろん自然に触れ合える手植えです。田植え紐と支柱を使って田植えを行います。田んぼの中は泥だらけで大人でも歩くのに苦労しますが、一生懸命に田んぼの中を歩く園児たちの姿が印象的でした。研修生・OBの陽気さと園児たちの純粋無垢な心が良い化学反応を起こし、とても楽しく和気あいあいとした田植え交流会となりました。笑顔で溢れる場面がたくさんあり、心の温まる時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。(国ボラ山崎)



7月の予定

7/4(日) 日本語検定試験、九州電力農業ボランティア

7/6(火) 福岡県庁パネル展(13日迄)

7/8(木)・9(金) 早良高校農業ボランティア

7/28(水) オイスカ西日本支部幹事会(オンライン)

7/29(木) WEB 報告会(テーマ「新たな森林の活用」)

体験農園だより

梅雨の時期ですが、晴れの日が多く、すくすくと野菜は育っています。4月ごろに植えたキュウリやインゲン、ピーマン、ナスなどが採れ始めました！特にキュウリやインゲンは1週間で驚くほどに大きくなり、参加者の皆様も喜んでくださいます。また今年はいリモートワークの普及もあってか、平日にも収穫にいらっしゃる方が多い印象です。もう少しすれば最盛期に入り、その他の野菜も採れ始めます。体験農園の野菜を食べて、夏を乗り越えてもらえたらと思います。

行事では6月5日(土)に田植大会を行いました。約100名の方々が参加されました。子どもたちは泥んこになりながら、楽しそうに植えていました。参加者の中には田んぼの様子を観察されている方もいらっしゃるようです。まだまだ先ですが、収穫がものすごく楽しみです！(飯川)



熊本ボランティア

2016年に発生した熊本地震。西日本研修センターでは研修生も含め、被災地域の環境整備や農業支援ボランティアで数十回訪問しました。その際、お知り合いになった、松岡さん(西原村の農家)より、毎年さつまいもの苗を頂いています。今年も6月9日に研修生、スタッフ一同で訪問し、苗を頂くお礼として、苗床ハウス3棟の片付けと農地の草刈を手伝いました。今年頂いた苗は既にセンター圃場で定植し、11月にはとっても甘い、美味しいさつまいもが収穫できそうです。もちろん、11月に予定している「収穫祭」でも大人気の芋掘りが出来るよう準備しています。松岡さん、今年もありがとうございました。(廣瀬)

まるごと!西日本

発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部

福岡市早良区小笠木 678-1

TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322

E-mail: oiscantc@oisca.org 検索 [オイスカ西日本](#)



第 690 号

令和 3 年 7 月号付録



←Facebook に日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！

令和 3 年度研修生受入延期

本来であれば、去る2月より令和3年度の海外研修生10名が入国する予定でしたが、コロナの影響により現在まで入国出来ていません。西日本研修センターとしては、6月末までに入国出来ない場合は、来年度へ繰越することに決定しました。各国で待機している候補生には、それぞれオンラインでインタビューを行い、来年度への変更を説明し、皆来年の訪日に期待を持っております。

今年度は、昨年に引き続き、農業研修生2名、OB研修生2名の計4名での専門研修を実施して行きます。少ない人数ですが、スタッフ一同も含め、しっかりと頑張りますので引き続き応援をおねがいします。また、農業研修はしっかりと実施していますので、出来ればお手伝いが欲しいなあ～と願っております。ボランティア希望の方、是非ともご連絡頂きますようお願い致します。(廣瀬)



後列: 左からフィジーのパウさん、パプアニューギニアのマックスさん、企業内転勤のアルネルさん

前列: 左からパプアニューギニアのアフィーさん、フィリピンのジェレミーさん

オイスカ国際活動促進福岡県議会議員連盟総会

6月10日、令和3年度の議員連盟総会が県議会棟にて開催されました。コロナ禍ではありましたが、70名近くの会員(総勢83名)の県議の方々が集い、活動報告、収支報告等について報告がありました。今回は役員の変更も発表され、令和3年度から、福岡市西区選出の野原隆士先生が新会長に就任されました。研修センターからは所長の廣瀬が参加し、研修センター及び研修生の現状報告並びに、海外で活躍するOBの活動等を報告しました。多くの先生方より、今年の研修生が来日出来ない件で、本当にご心配頂きました。オイスカの活動自体に変更はないので、これからもよろしくお願い致します。(廣瀬)

技能実習生の近況 現在オイスカ西日本研修センター管轄での技能実習生の受入れは、福岡、佐賀、大分で20名の実習生が7つの職種でそれぞれの実習先で実習を行っている。既に3年が経過し3号に移行し初来日から4年目、5年目を迎えている人もいます。中には、先輩として後輩の実習生や日本人の新入社員に対して指導している場面なども見受けられました。まだ日本語面で不安を感じながらもまだまだ指導員から指摘を受けながら実習を行っている実習生もいますが、どの実習生も真面目に一生懸命仕事に取り組む姿勢は、私たち日本人も見習う点が多いように感じます。今のところ、コロナ過の影響で実習自体に大きな支障が生じているところはありませんが不要不急の外出が叫ばれる中で不便な状況が続いています。昨年初めに入国した人は、当初からコロナ過で福岡に来て1年以上が経っても未だに自分たちでは博多・天神にも行けず残念がっています。課題も多々ある制度ではありますが、現実今の日本の農業や漁業、その他モノづくりの現場の一端を彼ら外国人技能実習生が支えています。(彦坂)



研修生事前面談の実施

6 月に入ってから、2021 年来日予定であった研修生 6 名と事前面談を行うことができました。残念ながら、ミャンマー研修生 1 名とは、面談ができていませんが、担当スタッフによると、彼女は、ミャンマーのセンターで、気象条件の厳しい中、苦労しながらも、野菜担当として、がんばっているとのこと。また、6 名は、研修が延期されても、来年の研修生になりたいということです。

今回の事前面談では、①自己紹介・近況紹介 ②センターの紹介ビデオ視聴 ③日本語の習得状況確認を行いました。①については、センターで働いている人、大学に通いながらオイスカでボランティアをしている人、地元で家の農業を手伝っている人、様々です。フィジー研修生が「コロナ禍で、農業に集中できるから、特に問題ない！」と言っていたことが、印象に残っています。②については、日本での研修のイメージがなかった人が、「センターに行きたくなった！」と言ってくれたことが、嬉しかったです。③については、本部での事前面談で「ひらがなは 100%できます。」と言っていた研修生が、実はぜんぜん読めなかったり…きつと、五十音表では読めるのですが、1 文字で読めるようにと指導しました。一方で、文法もある程度勉強し、こちらの日本語での質問に答えられる研修生もいます。それぞれに課題を伝え、国での待機中、勉強するように話しました。事前面談をとおして、現地スタッフと交流ができたり、通訳をしてくれた OB 研修生と出会えたり、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、現地の研修生の額から流れる汗(暑いかな～)、後ろにチラリと見えるお父さんの姿、子どもたちの声、鶏の鳴き声など、オンラインだからこそ、印象に残っています。今後もオンラインでの面談を続けたいと思います。そして、彼らの来日が実現できる日を楽しみにしたいと思います。(立石考子)



OB 研修生紹介 今回紹介する OB 研修生は、2011～2012 年の研修生インドネシアのアプリアさんです。アプリアは非常に頑張り屋さんで、よく気が付く優秀な研修生でした。帰国してから早いもので 10 年近くが過ぎましたが、今何をしているのでしょうか。

皆さん、こんにちは。私はインドネシアのアプリアです。私は 2011 年から 2012 年にかけてオイスカ西日本研修センターで有機農業の研修を受けました。国に帰ってからは、2011 年に半年ぐらいオイスカスカブミ研修センターで農業を教えました。女性生活改善の活動も手伝いました。2012 年から 2016 年にチアンジュールという所にある「The Learning Farm」で、オイスカみたいに研修生に農業を教えました。2016 年から 2017 年 AI Farhan という専門学校で日本語の先生になりました。AI Farhan 専門学校も CFP(子どもの森計画)の活動に参加しています。そして、父の農業も手伝いました。2017 年に私は結婚して主人のふるさとのカラワンという所に引っ越しました。カラワンはスカブミから車で 6 時間かかります。私の家族は 3 人で、主人と 2 歳の娘がいます。主人の仕事はジャーナリストです。今私は主婦をしながら、家でおもちやケーキを作って販売しています。誕生日ケーキやブラウニのケーキなどを作っています。日本で思い出すことは、子どもの頃インドネシアの学校で写真を見て勉強した広島と長崎を見学した事です。私のこれからのプランは、今やっているもちとケーキの販売を、もっと宣伝しながら沢山のの人に販売して、ケーキ屋さんを作ることです。今はコロナがあるのでオイスカのスタッフの皆さん、オイスカメンバーの皆さん、身体に気を付けて、ビタミン C を飲むことを忘れないでください。皆さん一緒に頑張りましょう。



↑アプリアさん(真ん中)と家族



会員さま紹介 株式会社エイジア・フロンティア (オイスカ熊本県推進協議会)

＜会社設立の経緯とオイスカの関係＞ 現在の推進協議会の前身である(財)オイスカ熊本県支部は、当時、熊本の地域造りを行う有志の呼びかけにより平成16年に再結成されました。丸本会長、山田事務局長、栗谷副会長、そして私が同じく副会長の任を受け、地域開発 人材育成 環境保全活動 国際貢献を銘打ち、現在まで変わらぬ体制で運営を行っているところです。私が社長を拝命している㈱エイジア・フロンテアは、「熊本からアジアへ」と国際貢献をベースに、オイスカの活動を支援する企業として、同じメンバーの出資により、平成27年に設立。まさにオイスカの理念とオイスカの存在そのものが㈱エイジア・フロンテアの存立意義であるともいえます。

＜オイスカへのメッセージ＞ 現地に赴くと、オイスカの存在感と評価の高さに改めて驚かされます。地道な活動を通じ、その国民の信頼を得るに至った先達たちやスタッフの方々の努力の積み重ねに改めて敬服するところです。今後は、植林活動や農業指導以外にも、日本の会員企業とともに現地でのソーシャルビジネスの展開が広がれば、より豊かな地域社会造りが可能になると思います。このような考え方の下、エイジア・フロンテアは「オイスカ企業」と標榜されるよう努力精進いたします。

＜事業内容＞ ～インドネシアのイチゴプロジェクト～ ご縁があった、インドネシア ガルト県。何か付加価値の高い農産物のノウハウ提供ができないかと、阿蘇のイチゴ栽培の経営者であり、東海大学の教授でもある木ノ内均氏に協力を仰ぎ、JICA の予算の元で、和イチゴの苗造りと栽培に着手しました。現地のパジャジャラン大学と東海大が MOU を締結。大学関係者の研究の交流も含め、プログラムは順調に推移し、暑さに強い無菌の苗の育苗が完成し、JICA の次なる予算も決定し、「さあ定植」という段階で、コロナ禍に巻き込まれ、残念ながら現在プロジェクトは中断している状態ですが、一日も早く、インドネシアに真っ赤な大粒の甘いイチゴを实らせたいと思っています。

～モンゴル熊本 ママさん交流プロジェクト～ モンゴルでは、窓口であるオイスカモンゴルのニンジンさんと共に、現地のママさんたちと熊本のママさんたちの交流プログラムがスタートしました。「交流を通じお互いを理解し、その結果として、せつけんやフェルトの手作り商品が日本に紹介されていく」といった流れを作るため、現在 zoom を利用した定期的な打ち合わせを行っており、コロナ収束後に行うフェアを含めての準備というところです。これは、国際財務委員会より予算を頂き着手したものであり、「世界中のママさんたちの交流」をモデル化し、「世界中の女性起業のソーシャルビジネス」の広がりが生まれればと、夢見ているところです。



㈱エイジア・フロンテア 代表取締役 社長 石原靖也
熊本市中央区上水前寺 1-6-41 OCO ビル 903
096-340-1192

農場研修風景

6 月中旬からセンターでは朝の収穫作業が 5 時 30 分からのスタートになりました。現在収穫できる野菜は、トマト、ミニトマトを筆頭にキュウリ、ナス、ピーマン、インゲンマメなどがあり、それらの野菜を 3 つのグループ(1 グループ 3 名)に分かれて畑をまわって収穫していきます。今年は梅雨入りが早かった割には雨量が少なく、空気が乾燥しているために朝がとても涼しく、収穫するには最適なコンディションとなっています。

しかし、毎年 15 名程いた研修生が今年は OB 含めて 4 名と少ないために、収穫作業に時間がかかりますが、毎日立派に成長してくれる野菜を収穫できることは本当に嬉しい限りです。7 月に入ってから、オクラの収穫も本格的に始まり、作業は益々大変になっていきますが、研修生とスタッフ力を合わせて頑張っていきます。(豊田)

